

○ 基本計画の名称：いわき市中心市街地活性化基本計画

○ 作成主体：福島県いわき市

○ 計画期間：平成 29 年 4 月～令和 7 年 3 月（計画期間 8 か年）

※平成 29 年 4 月～令和 5 年 3 月の 6 年間は、内閣総理大臣の認定を受けた期間

1. 中心市街地の活性化に関する基本的な方針

（1）地域の概況

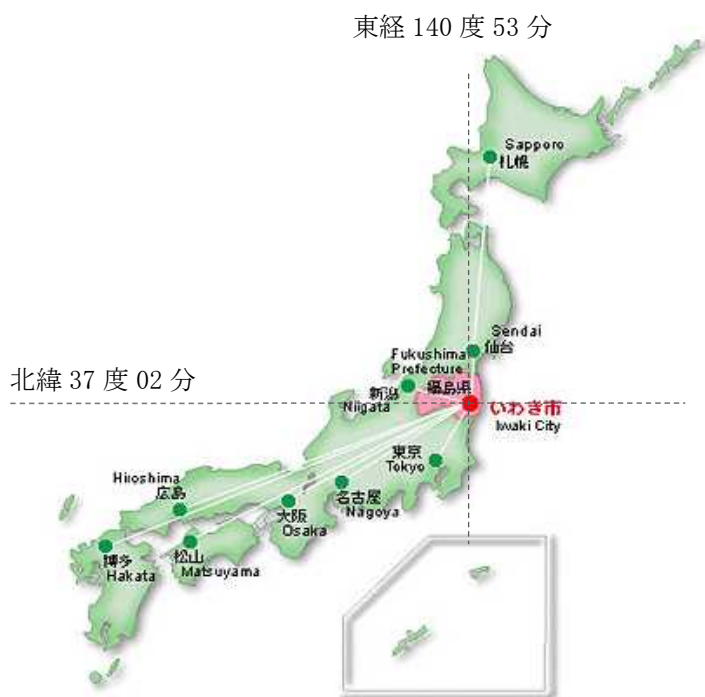
1) いわき市の概要

○位置、地勢および気候

いわき市は昭和 41 年 10 月 1 日に 14 市町村（5 市 4 町 5 村）の合併により誕生した。福島県の東南端に位置し、南端は茨城県、西は阿武隈高地、東は太平洋に接している。

市域の総面積は 1,232.02 ㎢、人口は 328,794 人（平成 28 年 5 月住民基本台帳）と広大な面積を持つまちで、福島県全体の約 8.9%を占める広大な市域を有し、現在では全国で 12 番目の面積を有する都市となっている。

いわき市の気候は、太平洋に面しているため、寒暖差が比較的少なく、2015 年の年間平均気温は 14.3℃、年間降水量も 1,329.5 mmと少なく、年間日照時間は 2,114.2 時間（観測地点：小名浜特別地域気象観測所）と温暖な気候に恵まれた地域であるが、海岸部と山間部では気候に差があり、それぞれの気候風土に応じた生活が営まれているのも特徴である。地形は西方の阿武隈高地から東方へゆるやかに低くなり、平坦地を形成し、夏井川や鮫川等の河川が市を貫流し、太平洋にそそいでいる。



〇いわき市の歴史および沿革

飛鳥・奈良時代、いわき地方の北半分には磐城郡、南半分には菊多郡がおかれ、平下大越の根岸遺跡と勿来町の郡遺跡がそれぞれの役所跡と考えられている。

鎌倉時代に入ると、岩城氏が荘園の支配を通じて勢力を増し、南北朝時代の混乱期を経て室町時代には大館に城を構え、上遠野氏、岩崎氏、白土氏などの豪族を支配、最盛期にはいわき地方だけではなく、北関東までをも支配する戦国大名に成長した。

関ヶ原の戦いで徳川側に付かなかった岩城家は所領を没収され、代わって鳥居家が居城を物見ヶ岡に構えて以後、磐城平藩は内藤、井上、安藤の各家に受け継がれる一方、当地方は磐城平藩のほか泉藩、湯長谷藩、窪田藩、棚倉藩、笠間藩そして幕府領などが複雑に配置されることとなった。

明治維新を経て、明治4年(1871年)に廃藩置県が実施され、また明治22年(1889年)の市制・町村制の実施により当地方における枠組みの基礎が形成された。

高度経済成長の端緒に立つ昭和30年代、当時の基幹産業となる石炭産業斜陽化の影響から脱却することが急務の課題であったいわき地方においては、明治時代以来、地域を支えてきた石炭産業に代わり、重化学工業を中心とした新産業を育成し、港湾を整備した。この結果、昭和39年(1964年)に「新産業都市建設促進法」に基づく「常磐・郡山地区新産業都市」の指定を受け、その有効かつ適切な遂行を図るため、昭和41年、14市町村の対等合併により、「いわき市」が誕生した。

合併したいわき市は、高速交通網や工業団地などの産業基盤の整備と工場誘致を積極的に推進した。その結果、石炭産業から電気、化学等の分野を中心とする製造業へのシフトが順調に推移。製造品出荷額等が年間1兆円を超える東北有数の工業都市に成長し、製造業の就業者数も市の就業者人口の約4分の1を占めるに至っている。



根岸遺跡（磐城郡役所跡）



古河好間炭礦堅坑周辺

平成23年(2011年)3月11日に、世界でも例を見ない規模の東日本大震災が発生し、東日本各地は壊滅的な被害に見舞われた。いわき市では、地震による津波や火災の被害に加え、原子力発電所の事故により、地域住民の避難、農作物の摂取制限や出荷停止、漁業の操業停止など、生活基盤、産業基盤に甚大な影響を及ぼすこととなった。その後、まちづくりにおいては、被災者の支援や復興対策など、安心・安全なまちの確保のための取組や実現方策等が進められ、復興のためのランドデザイン等の計画が策定されるなど、被災地区の再生に向けて、まちづくり方策が推進されることとなった。特に沿岸部では、区画整理事業や防災緑地等の都市基盤の整備、大規模商業施設の整備が進められ、復興関連事業が進行している。

一方、復興の影響により、市内では近隣市町村や市内各地からの被災者の流入や復興関連事業の労働人口の流入が進み、それらを背景とした住宅供給や経済の活性化が促進されている側面も見られる。

2) 中心市街地の概要

○平地区中心市街地の歴史および沿革

鎌倉時代以降、地方豪族として勢力を伸ばした岩城氏は、文明 15 年（1483 年）、飯野平（大館）城に居を構えると、周囲に家臣団を集め、この結果、古鍛冶町、研町など、後の平市街地の基礎が成立した。

関ヶ原の戦い後、岩城家は全国統一した徳川家に所領を没収され、鳥居家が磐城 4 郡 10 万石として入領。藩主・鳥居忠政は飯野平城を廃し、物見ヶ岡に磐城平城を築城し、平市街を拡大させ城下町の整備を行った。その後、内藤家が 7 万石で入領、小川江、愛谷江を開削し、新田開発を行った。江戸中期、井上家が 10 年間、さらに安藤家が磐城平 5 万石を統治した。この間、街道と平城下の市街入口に当たる位置に鎌田町や新川町などが新たに整備された。

江戸時代初期、鳥居家は 10 万石（のちに 12 万石）として現在のいわき市の範囲を所領していたが、江戸時代中期から後期にかけて分轄され、磐城平藩の領域は狭まっていった。

明治元年（1868 年）磐城平城落城、同 4 年（1871 年）の廃藩置県により磐前県が成立し、県庁は北目村（後の平町の一部）に置かれた（明治 9 年（1876 年）に福島県に合併）。明治 14 年（1881 年）には、市街 4 村が合併して平町が誕生した。明治 29 年（1896 年）に磐城郡、磐前郡、菊多郡の 3 郡が合併して石城郡が誕生し、郡庁が平町に置かれた。

明治 30 年（1897 年）2 月には、平（現 いわき）駅まで日本鉄道磐城線（現 JR 常磐線）が敷設されると、当初は近隣の好間、赤井、小川などの炭鉱から産出される石炭の積み出し駅として、さらには商店や銀行、娯楽などが集中する消費地として活況を呈し、いわき地方の中心地として発展した。

大正 6 年（1917 年）には、磐越東線が全通、中通りとの往来が本格化していき、平町の人口は増加の一途をたどり、昭和 12 年（1937 年）6 月に、隣接の平窪村を合併して、郡内では初めて市制施行し平市となり、平市役所や高校などが既成市街の南方に配置されたことにより、市街地拡大が誘発され、当地方における中心性をさらに高めた。

昭和 16 年（1941 年）、第二次世界大戦に突入し、日本本土が空襲にさらされる中で、平市街においても、昭和 20 年（1945 年）3 月に 1 回、同年 7 月に 2 回の空爆を受け、犠牲者を伴って焼け出されることとなった。戦災復興土地区画整理事業の施行に伴う国道 6 号線と駅前通りの開設は、いずれも難航を極めたが、前者は昭和 30 年度、後者は昭和 27 年度にそれぞれ完成し、現在の基礎づくりとなった。

以降、建築物の高層化や大型小売店の進出が進み、近年では、いわき駅周辺再生拠点整備事業により、いわき駅舎改築・南北自由通路・南口駅前広場のペDESTリアンデッキ・バスターミナルなどが整備されたほか、いわき駅前地区第一種市街地再開発事業により「ラトブ」が整備されるなど、駅南側の賑わいが増している。



正保平城下絵図（市指定文化財）



日本鉄道磐城線平停車場（明治時代）

○平地区中心市街地の歴史的・文化的資源

【磐城平城本丸跡地】

磐城平城は、初代磐城平藩主・鳥居忠政が慶長8年(1603年)に築城した。本丸にあった美しい三階櫓は戊辰戦争の敗戦で焼失した。

磐城平城が廃城後に残された旧城跡の石垣跡、内濠跡である丹後沢公園、白蛇堀等に加え、近年は本丸跡地に300坪の芝生広場が整備されるなど、地域の資源となっている。



※旧城跡の石垣跡

※一夜城プロジェクト開催時(左：さくらまつり、右：一夜城ライトアップ)

【飯野八幡宮】

源頼朝が文治2年(1186年)に、石清水八幡宮の分霊を勧請し好嶋荘の総社として現在の平城跡地に建立したと言われており、社殿は国の重要文化財やいわき市の有形文化財に指定されている。

毎年9月には飯野八幡宮古式大祭の神輿渡御が行われ、拝殿で御霊入れの儀式後、楼門を出て稲荷台(子鋤倉神社の境内)まで渡御する。同時に、貞和2年(1346年)以来連綿と続けられている流鏝馬が行われ、これらも文化財に指定されている。



【子鋤倉神社】

元明天皇の和銅年中の勧請と伝えられ、元は大館に鎮座していたが、慶長年間、鳥居氏の平城築城に際し遷座された神社であり、平城三社(子鋤倉、飯野八幡、八坂)の一つである。

稲荷大明神とも称され、大同元年正月の創祀とも伝えられる。

子鋤倉とは、絹を作る蚕、農業用具としての鋤、そして倉と考えられ、衣食住を表している。

磐城四郡の総鎮守で、平城三社の一として歴代城主の崇敬が篤く、社領二十石を賜られている。



【高月館跡】

高月館跡は、現在の県立磐城高校の敷地を含めた崖に囲まれた高台にあり、東側の胡摩沢の谷と、南側の風呂ノ沢の自然地形を利用した中世の城館跡である。

江戸時代には、松尾芭蕉とも交友を深めていた内藤露沾(本名 義英)が、元禄8年(1695年)に高月台に居を構え、多くの俳人と交流を深め一つの文化圏を築くほどであった。

【アリオス（いわき芸術文化交流館）】

アリオスは、約 40 年にわたって市民から愛された旧平市民会館の跡地に平成 21 年に整備された。本館と、旧音楽館を改修した別館により構成され、施設の正面には一体的に整備された平中央公園があり、文化・芸術の拠点であるとともに、市民の憩い・交流の拠点となっている。



【いわき総合図書館】

いわき総合図書館は、市内各図書館のネットワーク拠点としての役割を果たすとともに、高度で多様な機能を持ち、誰もが親しみやすく、かつ利用しやすい施設として、平成 19 年にいわき駅前に整備した再開発ビル「ラトブ」内の 4～5 階に整備された。約 8,600 m²の面積があり、蔵書は 50 万冊を超えている。



【いわき市文化センター】

いわき市文化センターは、社会教育活動の推進や市民文化の振興を図ることを目的に昭和 50 年 4 月に開館した。施設は、大ホール、展示場、会議室、多目的室等目的に応じた様々な諸室を設置し、市民講座やサークルの学習はじめ、社会教育、地域・生活文化の振興、社会福祉の増進などの活動を行う団体が利用している。



【いわき市立美術館】

いわき市立美術館は、昭和 59 年に開館した。コレクションは、国内外の現代美術と地域ゆかりの美術に特色がある。企画展では、通常、4 月から 12 月にかけて、古今東西のさまざまな美術を紹介し、また、1 月から 3 月までは、市民の方が出品できる展覧会も開催している。

展覧会のほかに、ギャラリー・トーク、講演会、美術講座、実技講座、ワークショップ、コンサート、パフォーマンス、映像鑑賞会など各種事業を実施し、地域の芸術文化の中核となり、創造的な芸術文化を育み発信することを目指している。



(2) 地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析

1) 人口および世帯の動向

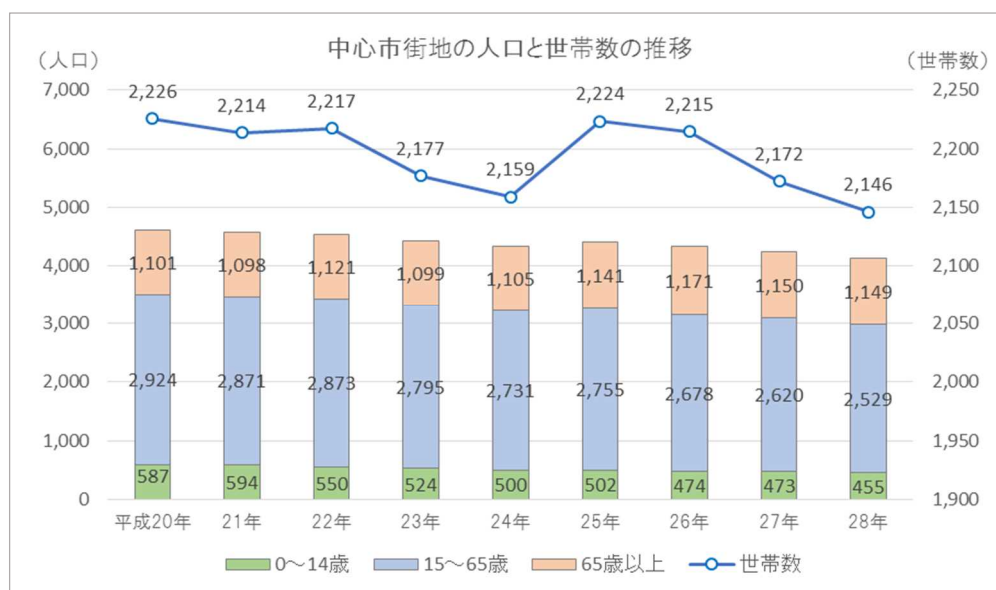
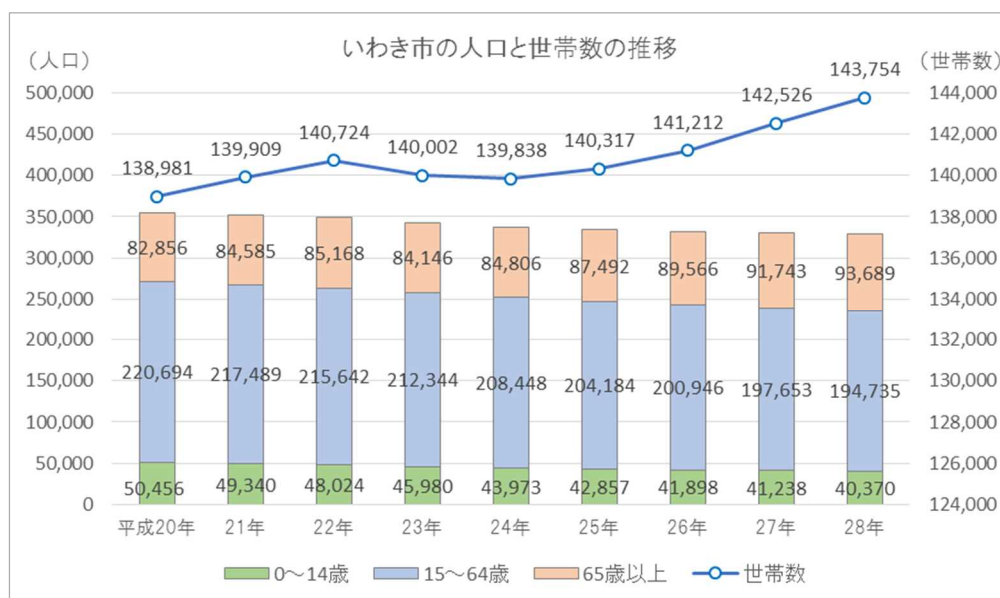
○人口・世帯数・高齢化率の推移

いわき市、中心市街地ともに人口は減少傾向にある。平成20年の人口を基準にすると、平成28年の人口は、いわき市で約93%、中心市街地で約90%と、いわき市に比べ中心市街地の減少率がやや大きい。

世帯数は、いわき市が増加傾向にあるのに対し、中心市街地では、平成24年から25年にかけて一度増加に転じたのち、減少傾向にある。人口および世帯数についての市に対する中心市街地のシェアの推移も同様、平成25年に一度増加に転じるが、その後の減少傾向が強くなっている。

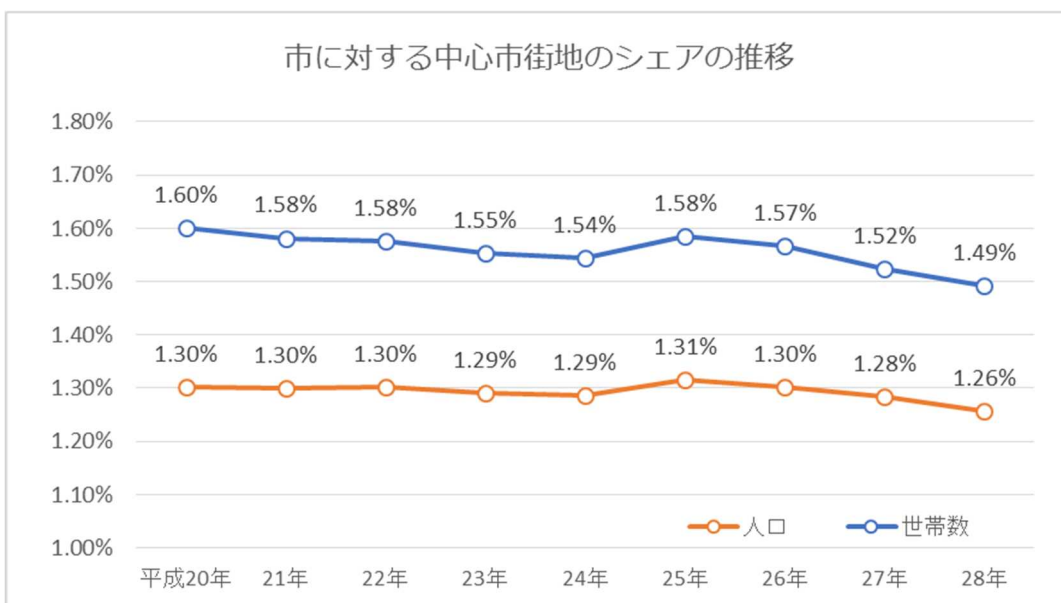
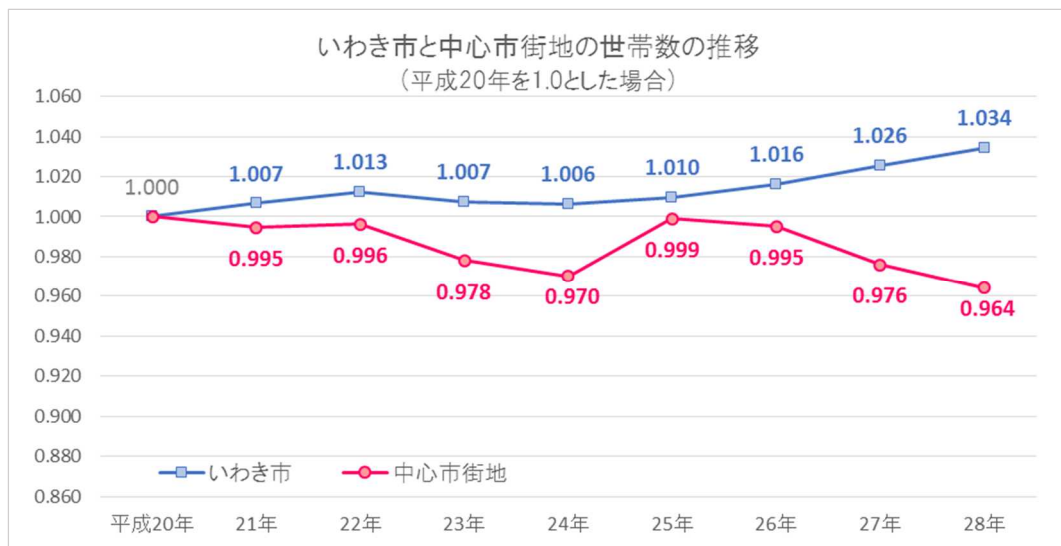
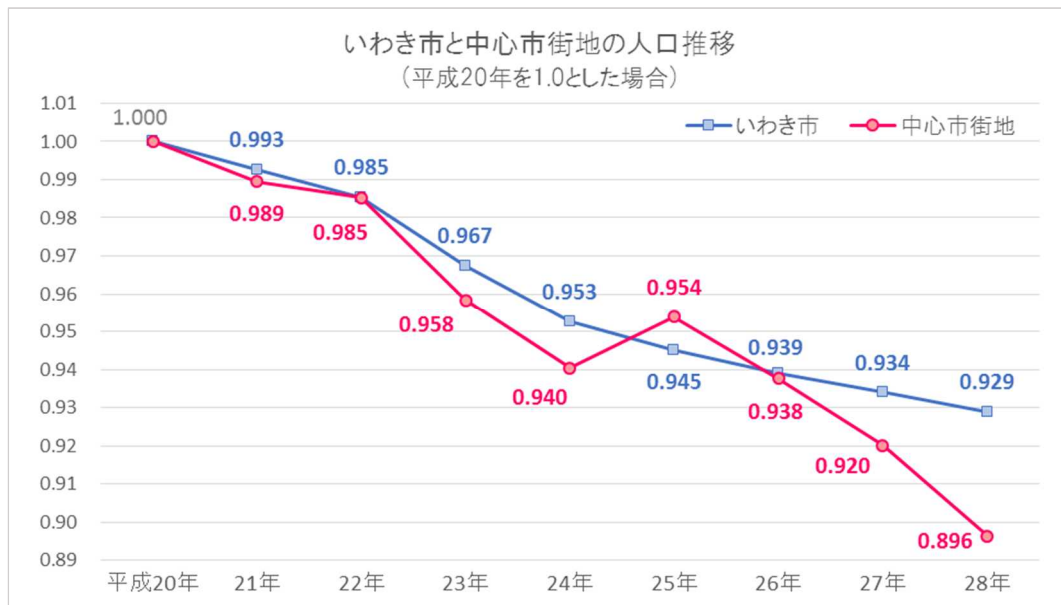
年齢区分別推移では、年少人口、生産年齢人口は右肩下がりに減少、対して65歳以上は右肩上がりに増加している。中心市街地では高齢人口の増加が横ばいとなっており、平成28年にはいわき市の高齢化率の方が高くなる結果となった。一方、年少人口、生産年齢人口の減少傾向は、いわき市に比して中心市街地がやや大きく、特に、年少人口比率の低下が強くみられる。

【人口構成と世帯数の推移】



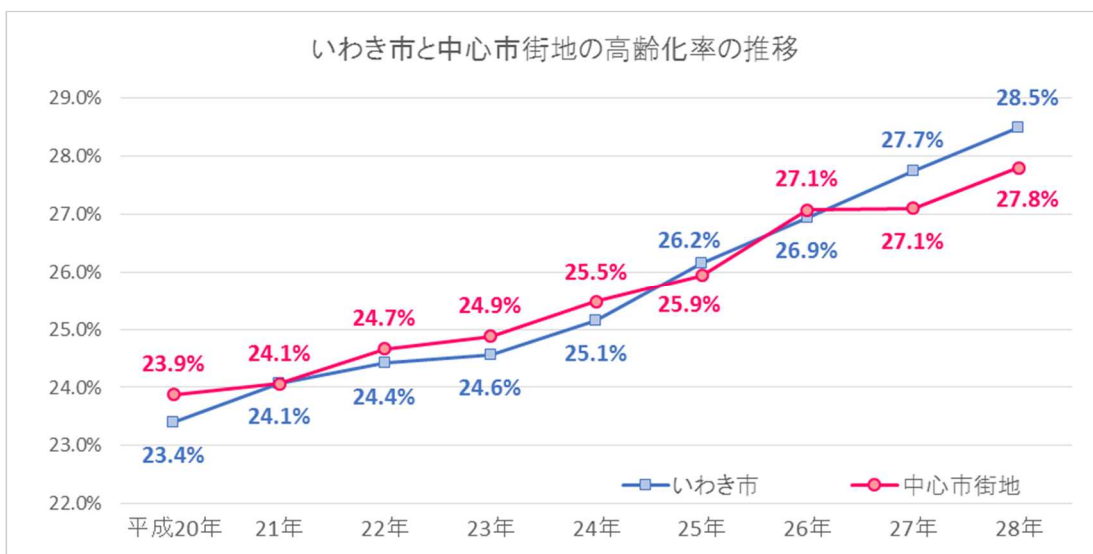
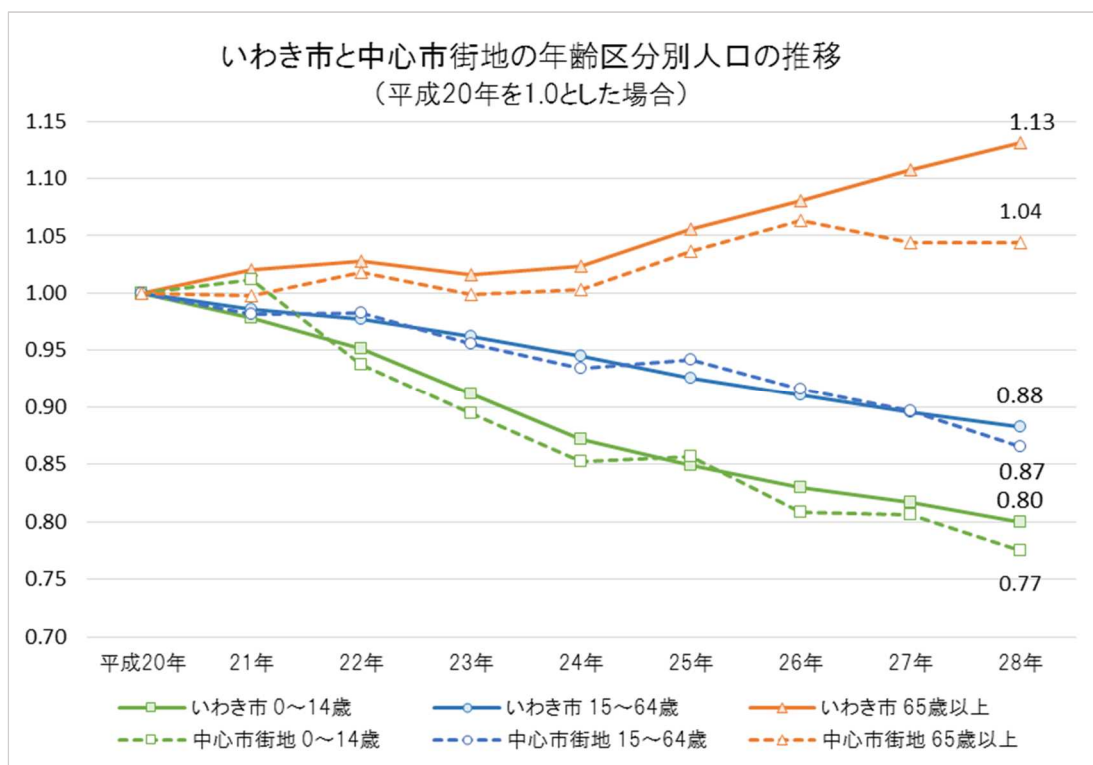
注) 人口は経年比較のため、日本人のみの人口を集計

出典：住民基本台帳（各年5月末日）より作成



出典：住民基本台帳（各年5月末日）より作成

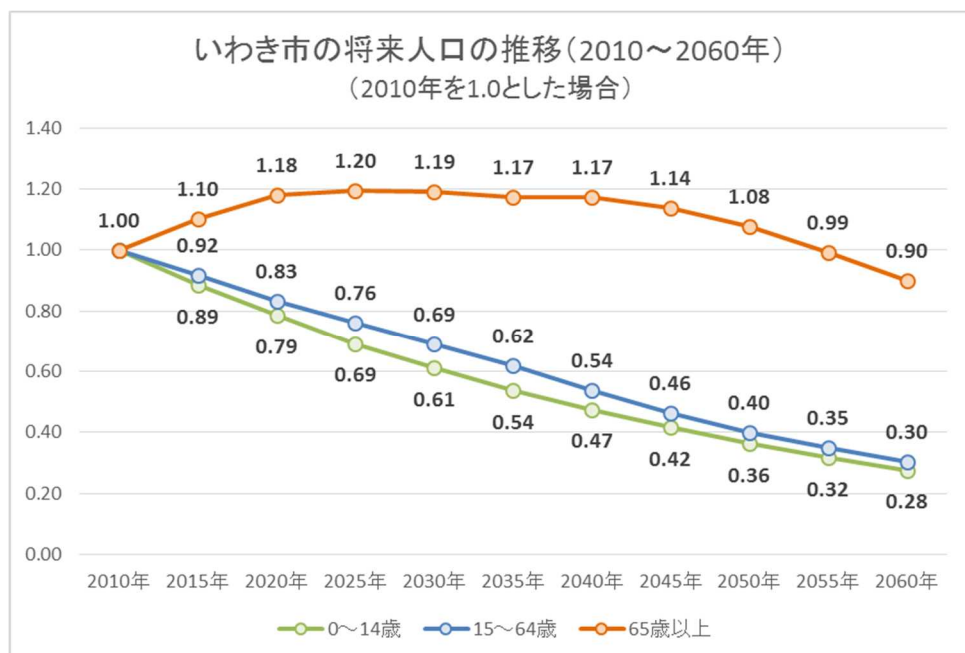
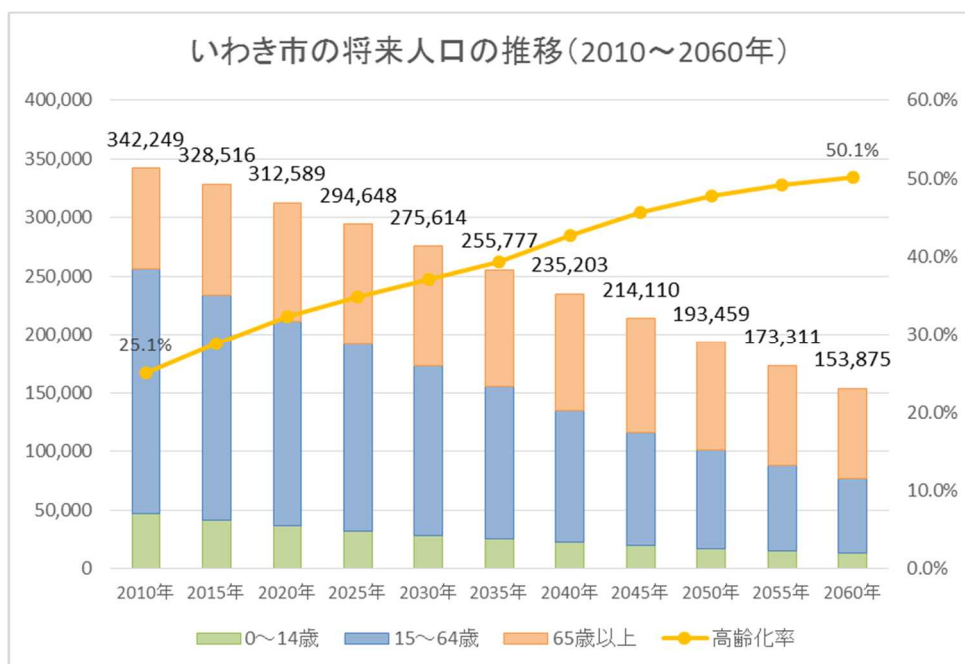
【年齢区分別人口と高齢化率の推移】



出典：住民基本台帳（各年5月末日）より作成

○将来人口の推計

将来人口推計より、いわき市の人口は年々減少すると推計されている。他方、年齢階層別の人口推移を見ると、2010年（平成22年）以降、64歳以下の人口割合は年々減少するのに比べ、65歳以上の高齢者の割合は2025年（令和7年）まで高まり続け、その後2055年まで微減傾向を保ちながら、同じ水準を保っていくと推計されている。いわき市の総人口は2060年には現在の人口の半分以上になり、高齢化率は50%を超え、一方で、生産年齢人口（15～64歳）は現在の3割程度まで減少すると推計されている。



出典：いわき市人口推計データより作成

○流入・流出人口の推移

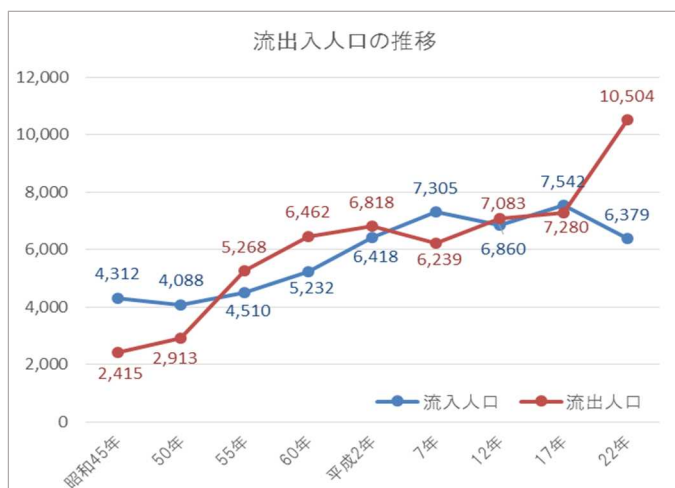
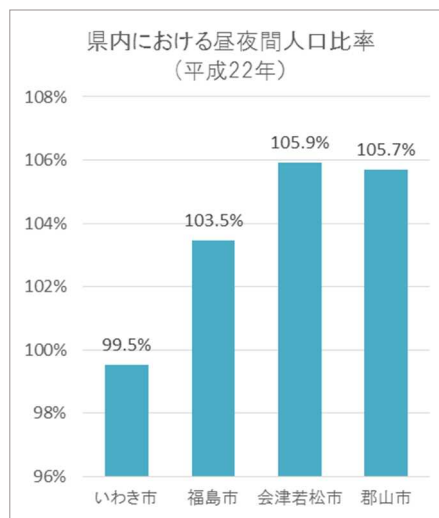
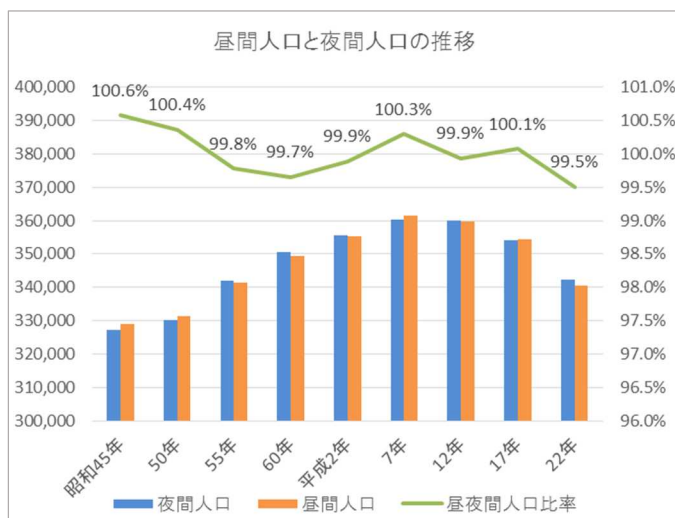
昭和45年から平成22年までの推移を見ると、夜間人口、昼間人口ともに平成7年をピークに増加傾向から減少傾向に転じている。

昼夜間人口比率は100%前後で増減を繰り返しており、平成22年は流出超過が最も大きくなっている。県内の他都市と比較しても昼夜間人口比率は低くなっている。

【昼夜間人口比率】

	夜間人口	昼間人口	昼夜間人口比率	15歳以上就業者および従業者数				
				従業地・通学地		常住地		流入超過数
				総数	うち他市町村からの流入	総数	うち他市町村への流出	
昭和45年	327,164	329,061	100.6%	176,690	4,312	174,793	2,415	1,897
昭和50年	330,213	331,409	100.4%	172,076	4,088	170,901	2,913	1,175
昭和55年	342,073	341,322	99.8%	179,024	4,510	179,782	5,268	-758
昭和60年	350,569	349,352	99.7%	181,891	5,232	183,121	6,462	-1,230
平成2年	355,695	355,307	99.9%	191,755	6,418	192,155	6,818	-400
平成7年	360,440	361,522	100.3%	197,669	7,305	196,603	6,239	1,066
平成12年	360,051	359,828	99.9%	188,753	6,860	188,976	7,083	-223
平成17年	353,999	354,269	100.1%	177,940	7,542	177,678	7,280	262
平成22年	342,249	340,569	99.5%	167,384	6,379	169,067	10,504	-4,125

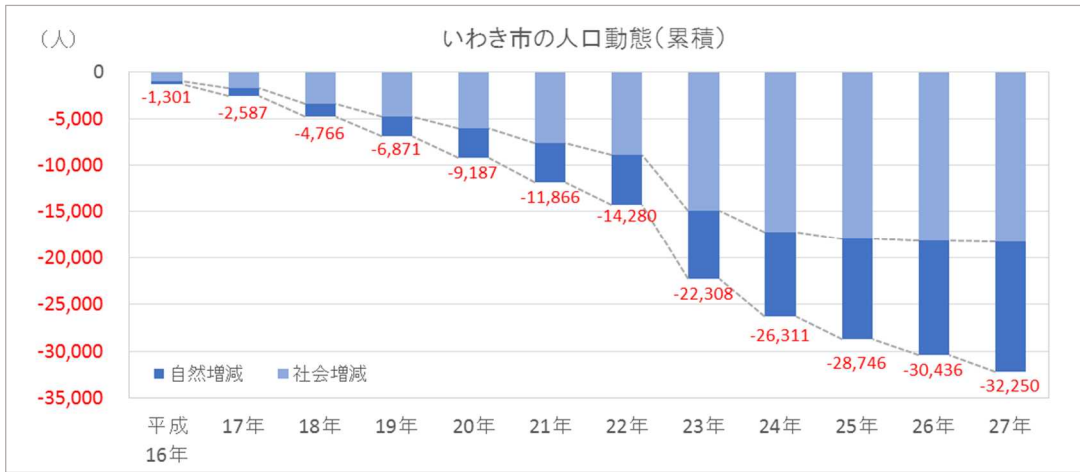
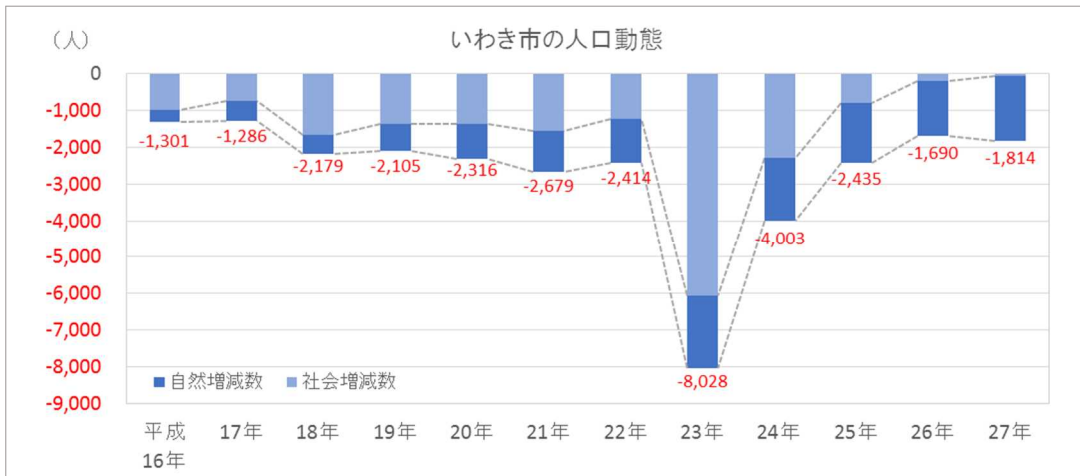
注釈： 昼夜間人口比率＝（昼間人口／常住人口）×100



出典：国勢調査（時系列データ）および
いわき市 平成22年 国勢調査報告より作成

○人口動態

平成 16 年からの社会増減をみると、東日本大震災が起こった平成 23 年の社会減は特異的に大きいものの、以降、社会減は大幅に減ってきており、人口減少は自然減の割合が大きくなっている。

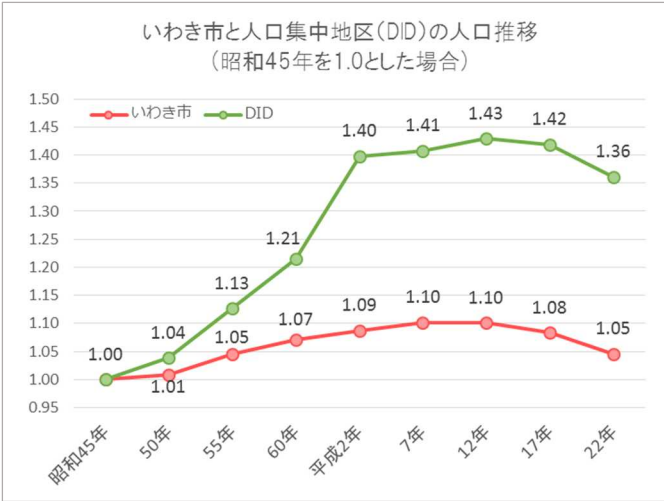


出典：いわき市統計書より作成

○人口集中地区

昭和 45 年からの推移を見ると、人口集中地区では、面積が平成 2 年にかけて急激に広がる一方で、人口は平成 12 年をピークに減少し、平成 22 年には平成 2 年の規模より縮小している。

	いわき市	人口集中地区(DID)	
	人口	人口	面積 (km ²)
昭和 45 年	327,164	121,034	19.0
昭和 50 年	330,213	125,770	25.5
昭和 55 年	342,074	136,331	32.3
昭和 60 年	350,569	147,030	35.0
平成 2 年	355,812	169,239	43.90
平成 7 年	360,598	170,396	44.80
平成 12 年	360,138	172,933	45.48
平成 17 年	354,492	171,739	45.75
平成 22 年	342,249	164,757	45.83



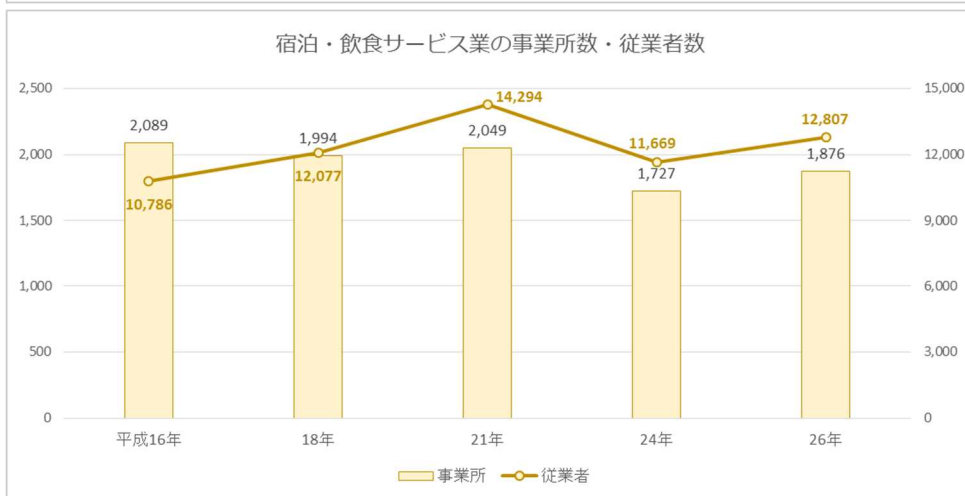
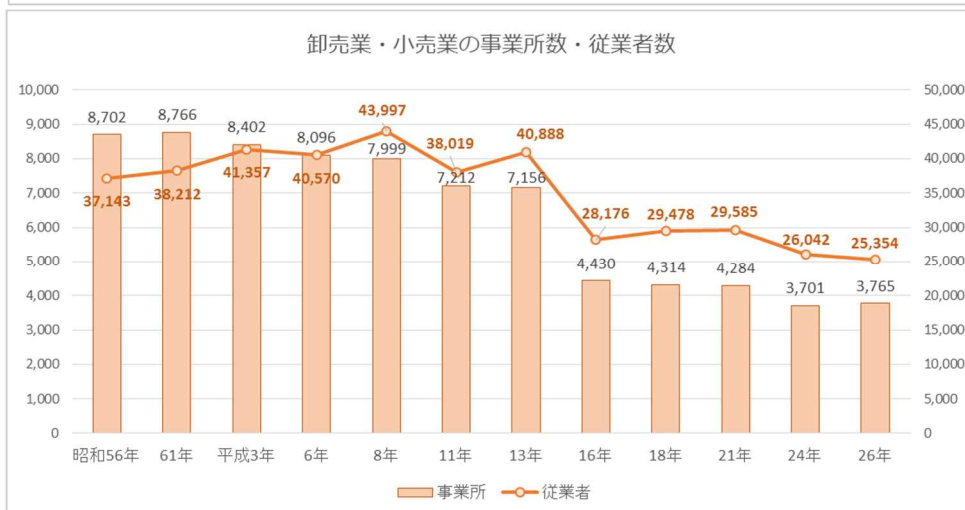
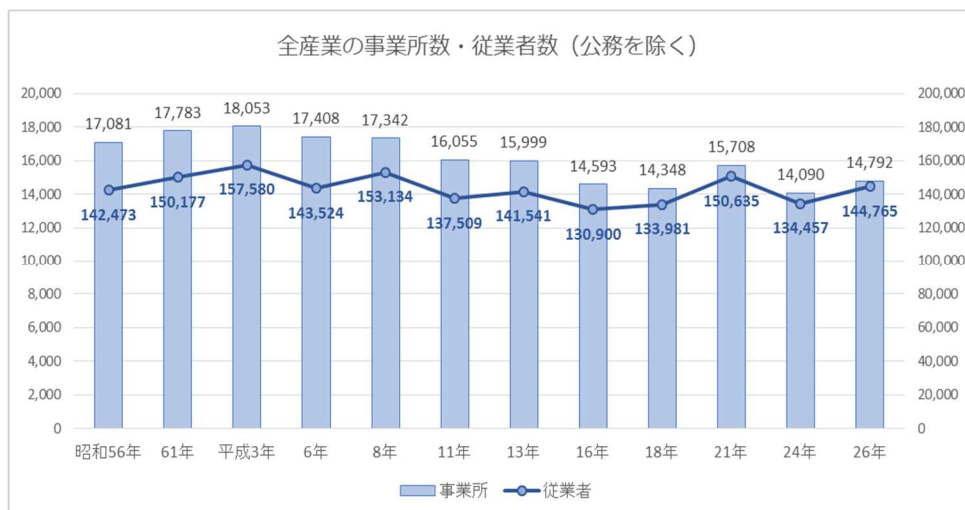
出典：いわき市 平成 22 年 国勢調査報告より作成

2) 産業・経済に関する状況

○事業所数・従業者数の推移

いわき市の事業所数は減少傾向にあるが、従業者数はほぼ横ばいであり、事業所の大型化がうかがえる。卸売・小売業については事業所数・従業者数が年々減少している。宿泊・飲食サービス業については、罹災直後の平成24年は大きく減少したが、近年は罹災前と同様、増加傾向となっている。

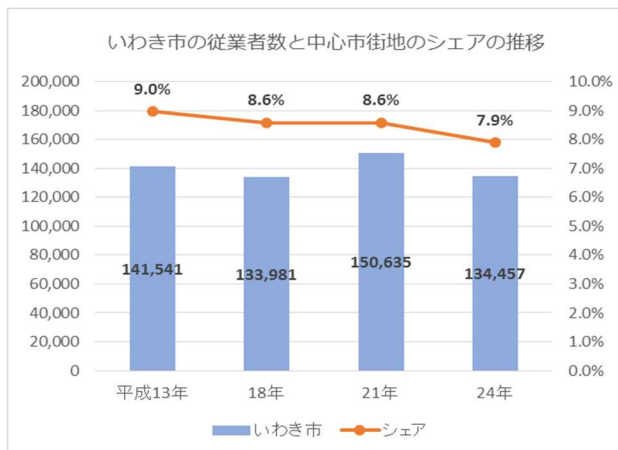
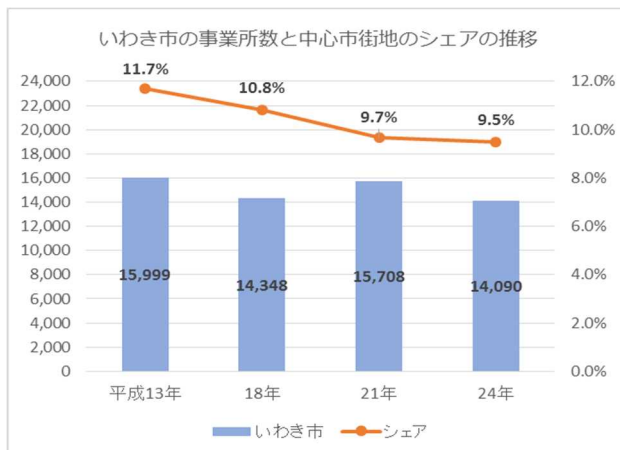
また、中心市街地の市に対するシェアは、事業所数、従業者数ともに年々減少傾向にある。



出典：事業所・企業統計調査（～平成18年）および経済センサス（平成21年、24年、26年）より作成
 注）卸売業・小売業についての平成16年以降の大きな減少は、平成16年調査から産業分類が変更となったため（卸売・小売業、飲食店の分類が、卸売業・小売業と宿泊業・飲食サービス業とに分かれたため）

【中心市街地の市に対するシェア】

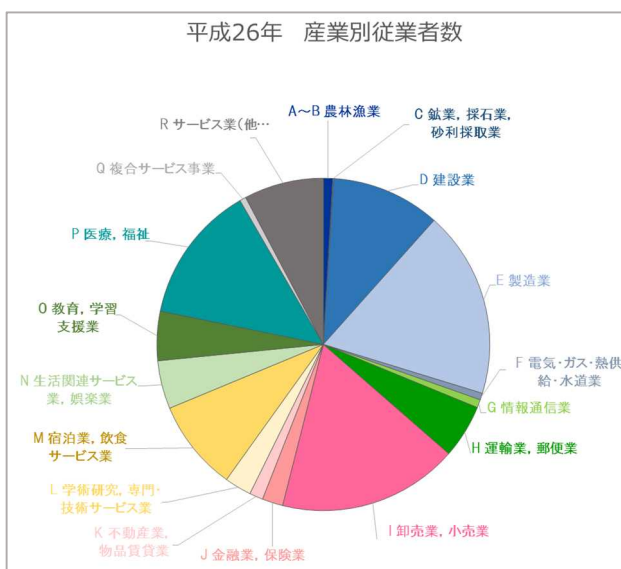
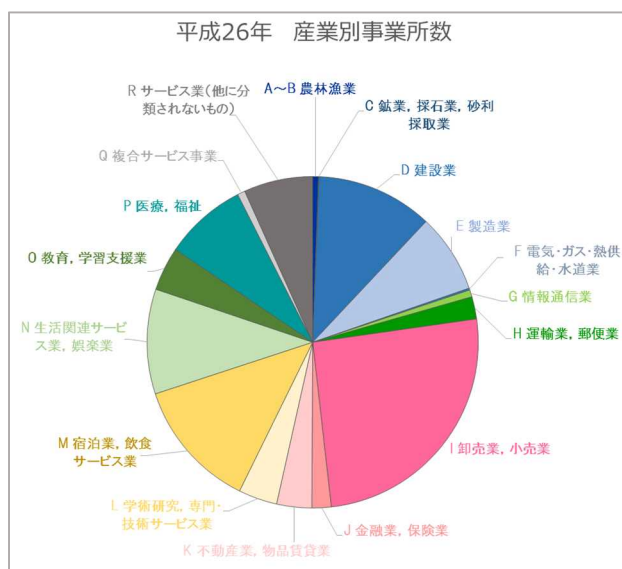
		平成13年	平成18年	平成21年	平成24年
事業所数	いわき市	15,999	14,348	15,708	14,090
	中心市街地	1,874	1,551	1,518	1,336
	シェア	11.7%	10.8%	9.7%	9.5%
従業者数	いわき市	141,541	133,981	150,635	134,457
	中心市街地	12,700	11,499	12,933	10,611
	シェア	9.0%	8.6%	8.6%	7.9%



出典：事業所・企業統計調査（平成13、18年）および経済センサス（平成21、24年）地域メッシュ統計より作成

【産業構造】

事業所数は、卸売業・小売業の割合が最も高く、次いで宿泊・飲食サービス業が多くなっている。一方、従業者数は、製造業と卸売・小売業の割合が高く、次いで医療、福祉業が多くなっている。



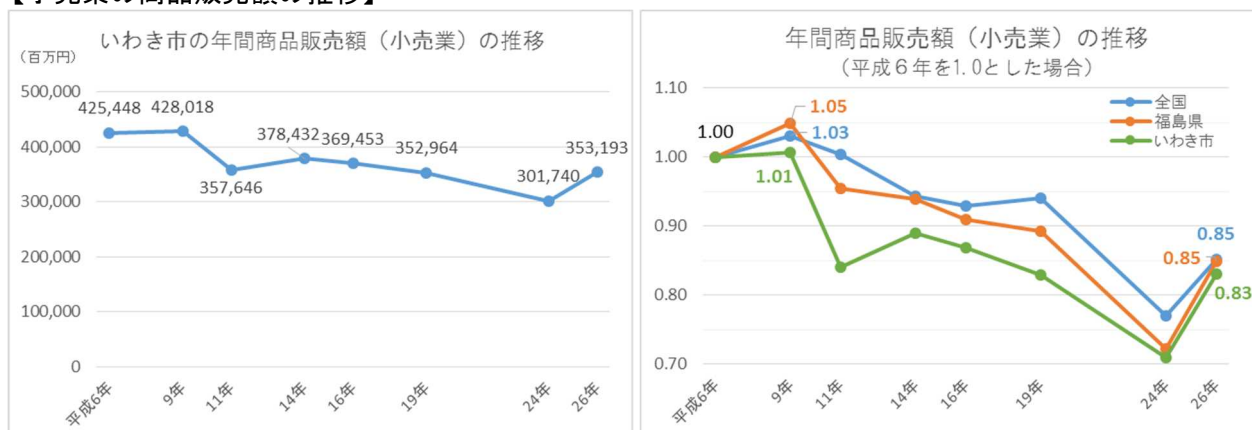
出典：経済センサス（平成26年）

○小売業の動向・集積状況

いわき市の小売業年間商品販売額は、平成9年をピークに減少傾向である。平成24年は震災の影響により大きく減少したのち平成26年に回復したものの、平成6年からの推移をみると、全国、福島県と比べて減少幅は大きい。

中心市街地の商業集積地（17地区）の動向を見ると、事業所数、従業者数、年間商品販売額、売場面積の全てが減少しており、市に対するシェアも同様の傾向となっている。特に、年間商品販売額や売場面積は、15%を超えていたシェアが約8%まで下がるなど、減少傾向が非常に強い。

【小売業の商品販売額の推移】

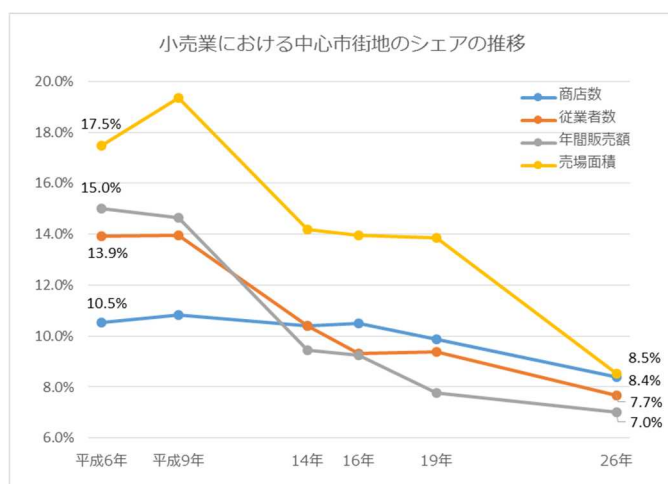


出典：商業統計調査（平成6～19年、26年）および経済センサス調査（平成24年）

【小売業の集積推移】

※中心市街地のデータは地域内の商業集積地区のデータにて集計

		平成6年	平成9年	平成14年	平成16年	平成19年	平成26年
商店数	いわき市	4,520	4,407	3,879	3,613	3,327	2,136
	中心市街地	476	477	403	379	329	179
	シェア	10.5%	10.8%	10.4%	10.5%	9.9%	8.4%
従業者数	いわき市	21,270	21,515	23,299	21,182	21,220	14,122
	中心市街地	2,962	3,002	2,381	1,973	1,992	1,083
	シェア	13.9%	14.0%	10.2%	9.3%	9.4%	7.7%
年間販売額 (百万円)	いわき市	425,448	428,018	378,432	369,453	352,964	353,193
	中心市街地	63,820	62,733	35,809	34,142	27,380	24,737
	シェア	15.0%	14.7%	9.5%	9.2%	7.8%	7.0%
売場面積 (㎡)	いわき市	346,461	405,745	429,434	420,879	441,093	354,452
	中心市街地	60,577	78,479	60,890	58,684	61,082	30,183
	シェア	17.5%	19.3%	14.2%	13.9%	13.8%	8.5%

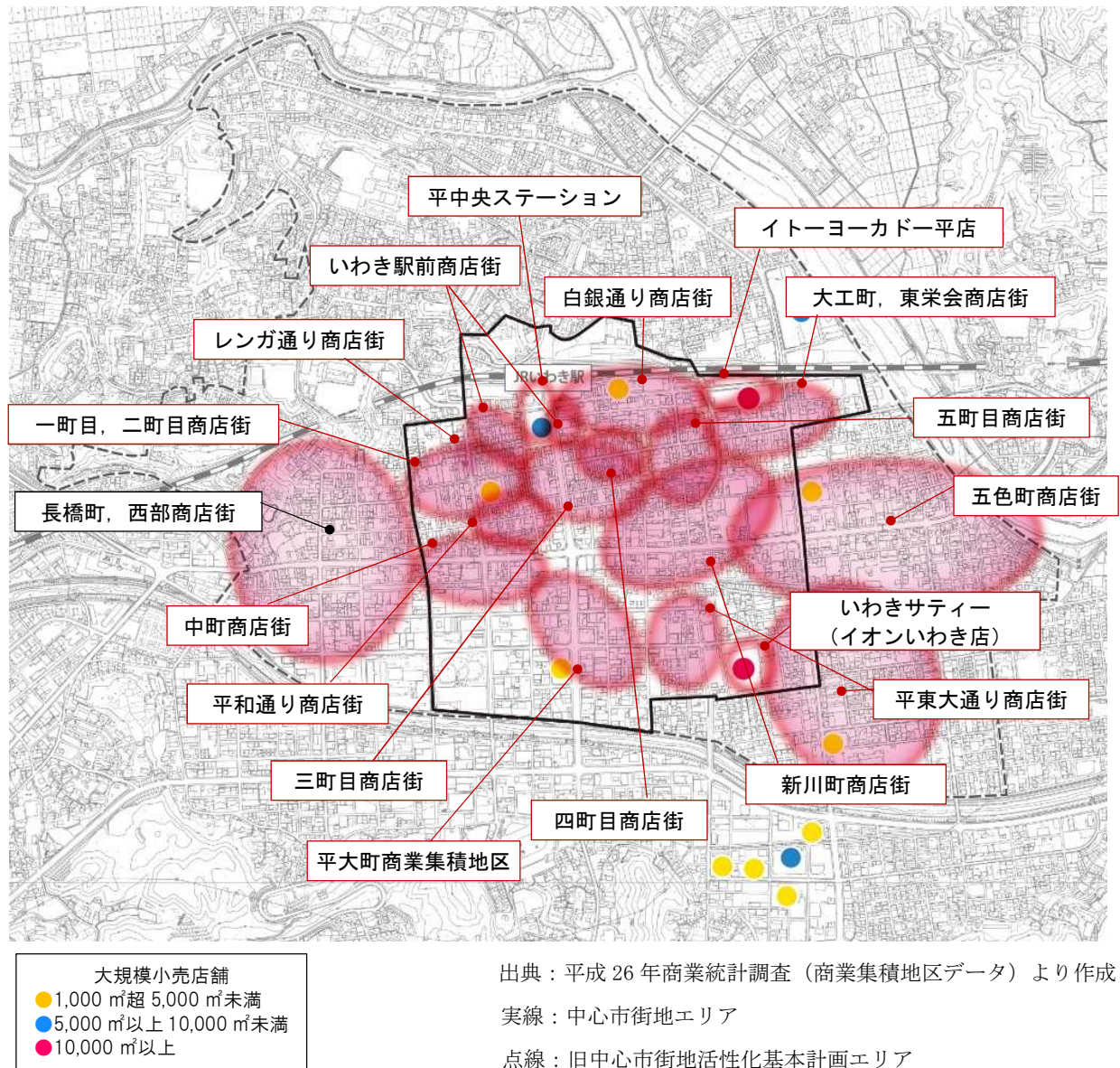


■中心市街地の主要商業集積地区

一丁目、二丁目商店街	平中央ステーション
三丁目商店街	大工町、東栄会商店街
四丁目商店街	新川町商店街
五丁目商店街	五色町商店街
いわき駅前商店街	平東大通り商店街
平和通り商店街	レンガ通り商店街
中町商店街	イトーヨーカドー平店
白銀通り商店街	いわきサティ
平大町商業集積地区	(イオンいわき店)

出典：商業統計調査
(商業集積地区／平成6～19年、26年)

中心市街地周辺の商業集積地区および大規模小売店舗の立地状況



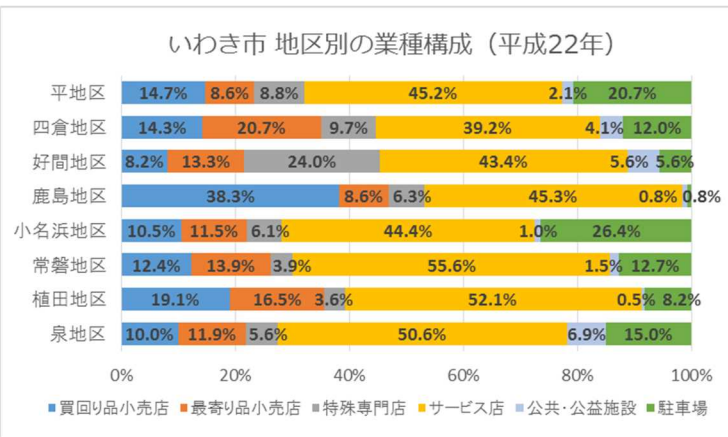
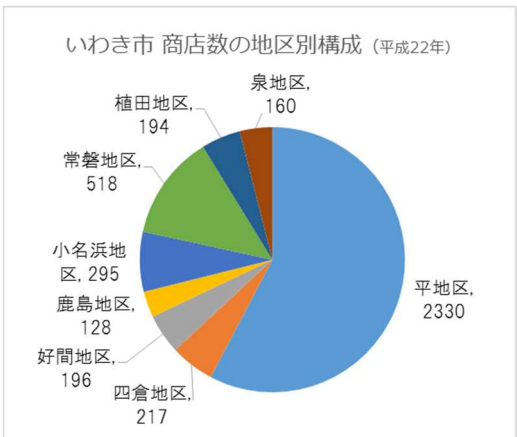
○商店街の現状

平成 22 年度商店街実態調査の業種業態調査によると、いわき市の商店街における商店数の地区別構成で、平地区の商店数は 2,000 を超え、いわき市の半数を占めており商業集積が非常に高い。

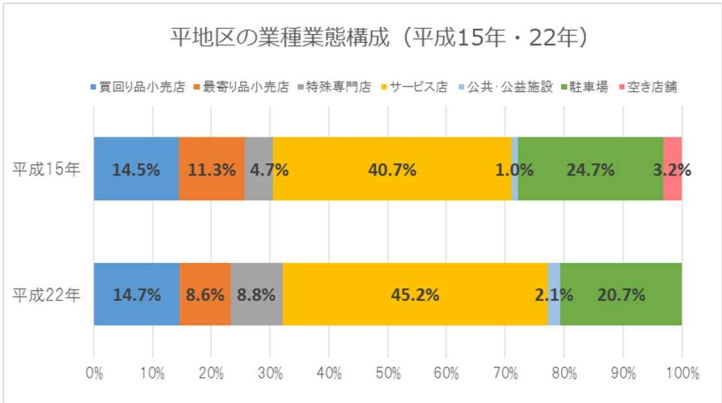
業種業態の構成をみると、平地区ではサービス店の割合が大半を占めており、スーパー等の食品店を含む最寄り品小売店の割合が非常に少ない一方で駐車場の割合が高い。

平成 15 年から平成 22 年にかけての業種業態の構成推移を見ると、大きな構成比率は変わらないが、飲食店等のサービス店や特殊専門店の増加が見られる一方、日常生活を支える生活必需品を販売する最寄り品小売店の割合は減少している状況がうかがえる。

【業種構成】



※四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。



業種・業態	例示
買回り品小売店	百貨店、総合スーパー、ホームセンター、衣料品店、書籍、文具、家具、家電 等
最寄り品小売店	スーパー、生鮮食料品店、コンビニエンスストア 等
特殊専門店	特殊小売店（新聞店等）、卸売店（工務店等） 等
サービス店	飲食店、理美容、クリーニング、ホテル、銀行、映画館、パチンコ 等
公共・公益施設	図書館、行政サービス、郵便局、学校 等

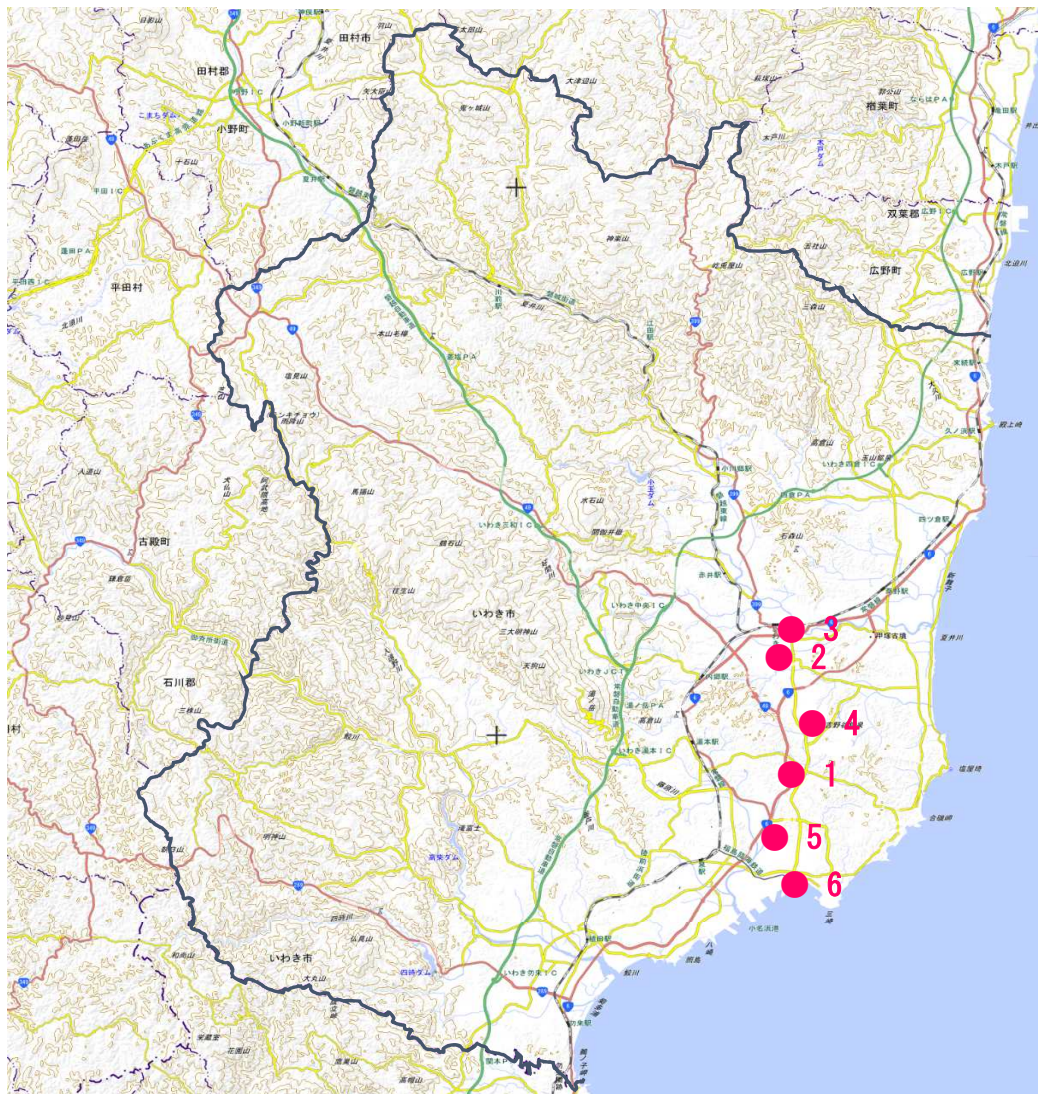
※平成 22 年の平地区には草野地区、赤井地区を含む。

出典：平成 15 年商業まちづくり調査、平成 22 年商店街実態調査

○大規模小売店舗の立地状況

いわき市には 10,000 ㎡を超える大規模小売店舗が 6 店舗立地しており、そのうち 2 店舗が中心市街地に立地している。立地している店舗はいずれも生活食料品スーパーで、地域の日常生活を支える拠点となっている。

10,000 ㎡超の大規模小売店舗の立地状況



出典：国土地理院地図情報をベースにいわき市データを用いて作成

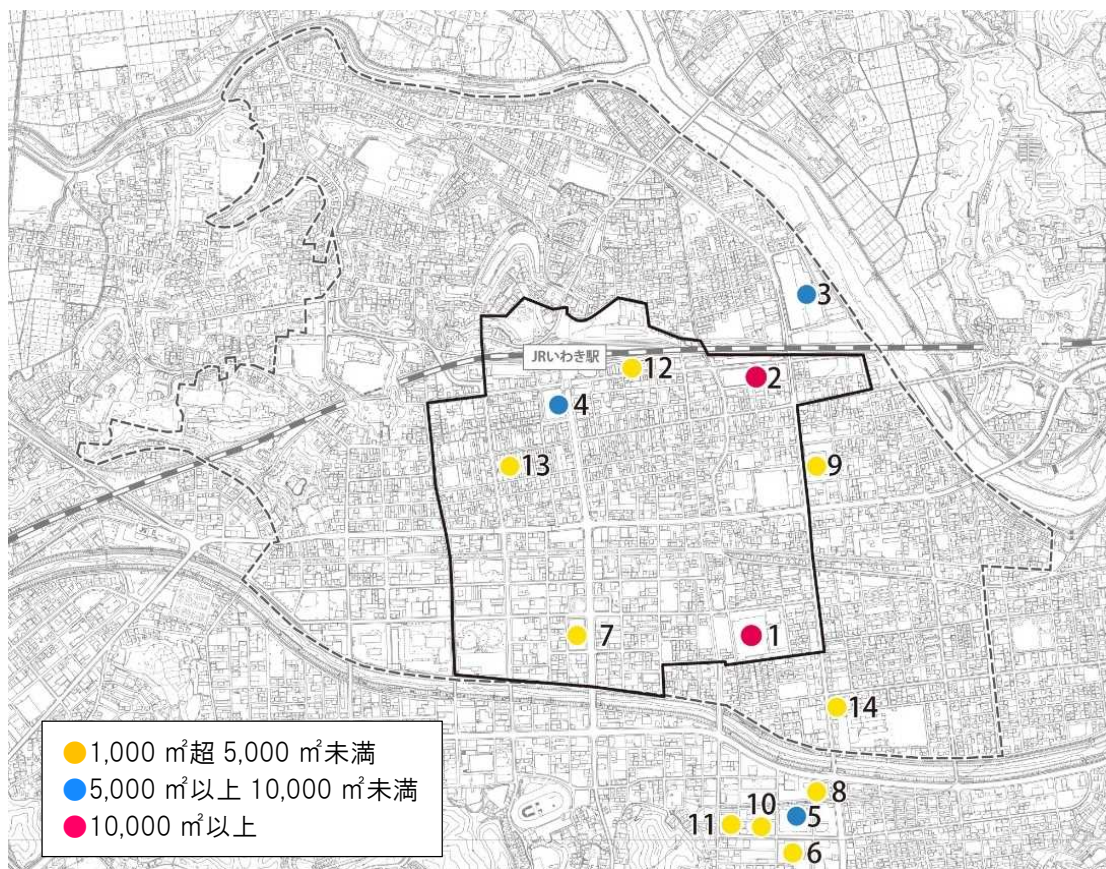
【いわき市内の 10,000 ㎡超の大規模小売店舗一覧（※は中心市街地内に立地する店舗）】

	店舗名	住所	店舗面積 (㎡)	開設年月
1	鹿島ショッピングセンター(エプリア)	いわき市鹿島町米田字日渡 5	31,297	平成7年1月
2	片倉フィラチャー (イオンいわき店、ニューライフカタクラ他)※	いわき市平字三倉 68-1	24,223	平成6年9月
3	イトーヨーカ堂平店※	いわき市平六丁目 6-2	14,452	昭和 46 年4月
4	いわきニュータウンショッピングセンター (ラパークいわき)	いわき市中央台飯野 4-1	14,359	平成8年3月
5	スーパーセンター大原店 (ヨークタウンアクロスプラザ大原)	いわき市小名浜大原字東田 96	12,172	平成6年 11 月
6	イオンモールいわき小名浜	いわき市小名浜字辰巳町 79	32,933	平成 30 年6月

出典：大規模小売店舗立地法に基づく届出状況を基に作成

中心市街地の周辺には、1,000 ㎡を超える大規模小売店舗が 14 店舗立地している。食料品、日用品、衣料品等を扱うそれらの店舗は、特に駅周辺の店舗集積が多い商業地域に立地している一方、新川南の近年再開発の進んだエリアに集中して立地し、分極化が見られる。

中心市街地周辺の大規模小売店舗の立地状況



【中心市街地周辺における大規模小売店舗一覧】

	大規模小売店舗名称	住所	店舗面積 (㎡)	開設年月
1	片倉フィラチャー (イオンいわき店、ニューライフカタクラ他)	いわき市平字三倉 68-1	24,223	平成6年9月
2	イトーヨーカ堂平店	いわき市平六丁目 6-2	14,452	昭和 46 年4月
3	マルトSC城東店	いわき市平字城東 1-7-3	8,610	平成 12 年7月
4	ラトブ	いわき市平字田町 120	8,263	平成 19 年 10 月
5	ヨークベニマル新谷川瀬店	いわき市平南部第二土地区画整理事業 52 街区1	5,518	平成 26 年4月
6	スーパーセンター谷川瀬B館 (ケーズデンキいわき本店)	いわき市平谷川瀬字泉町 45	3,684	昭和 56 年 10 月
7	コジマNEWいわき店	いわき市平字菱川町 3-1	3,674	平成 18 年4月
8	トイザらスいわき店	いわき市平谷川瀬字双藤町 77	2,200	平成6年4月
9	鮮場	いわき市平字正内町 80-1	1,883	平成8年7月
10	ユニクロいわき平店	いわき市平南部第二土地区画整理事業 54 街区2	1,493	平成 26 年4月
11	ハードオフいわき店	いわき市平谷川瀬字双藤町 3-1	1,480	平成5年6月
12	ベルフジビル	いわき市平字白銀町 9-1	1,477	昭和 57 年7月
13	ヤマニビル	いわき市平字二丁目 7	1,217	平成5年6月
14	マルト平白土店	いわき市平字作町 3-1-8	1,122	昭和 52 年2月

出典：大規模小売店舗立地法に基づく届出状況を基に作成

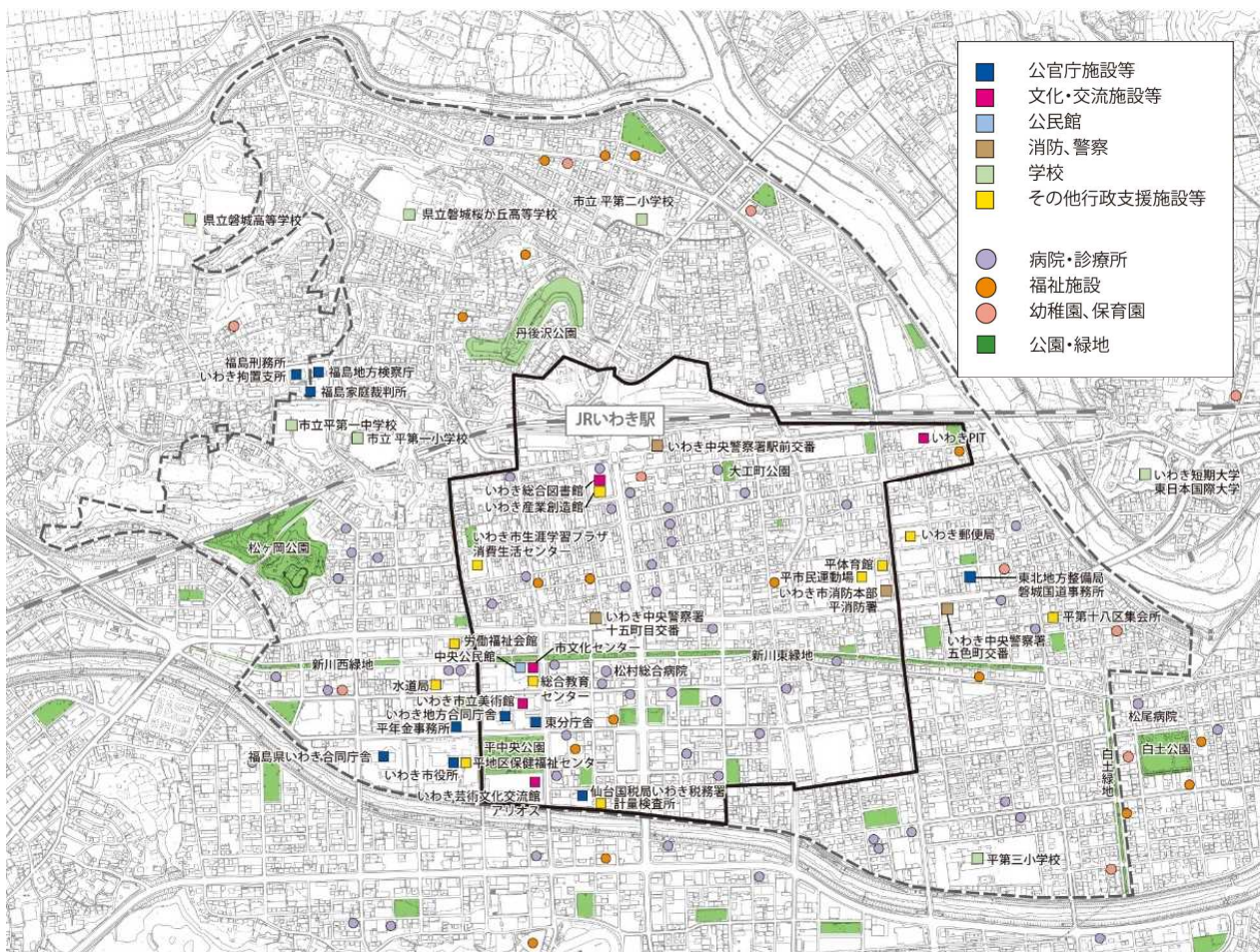
3) 都市機能

○公共公益施設等の立地状況

市役所をはじめとする行政機関等の公共施設、文化・スポーツ施設、教育施設、病院、医療・福祉施設等、各種の公共公益機能が中心市街地に集積している。

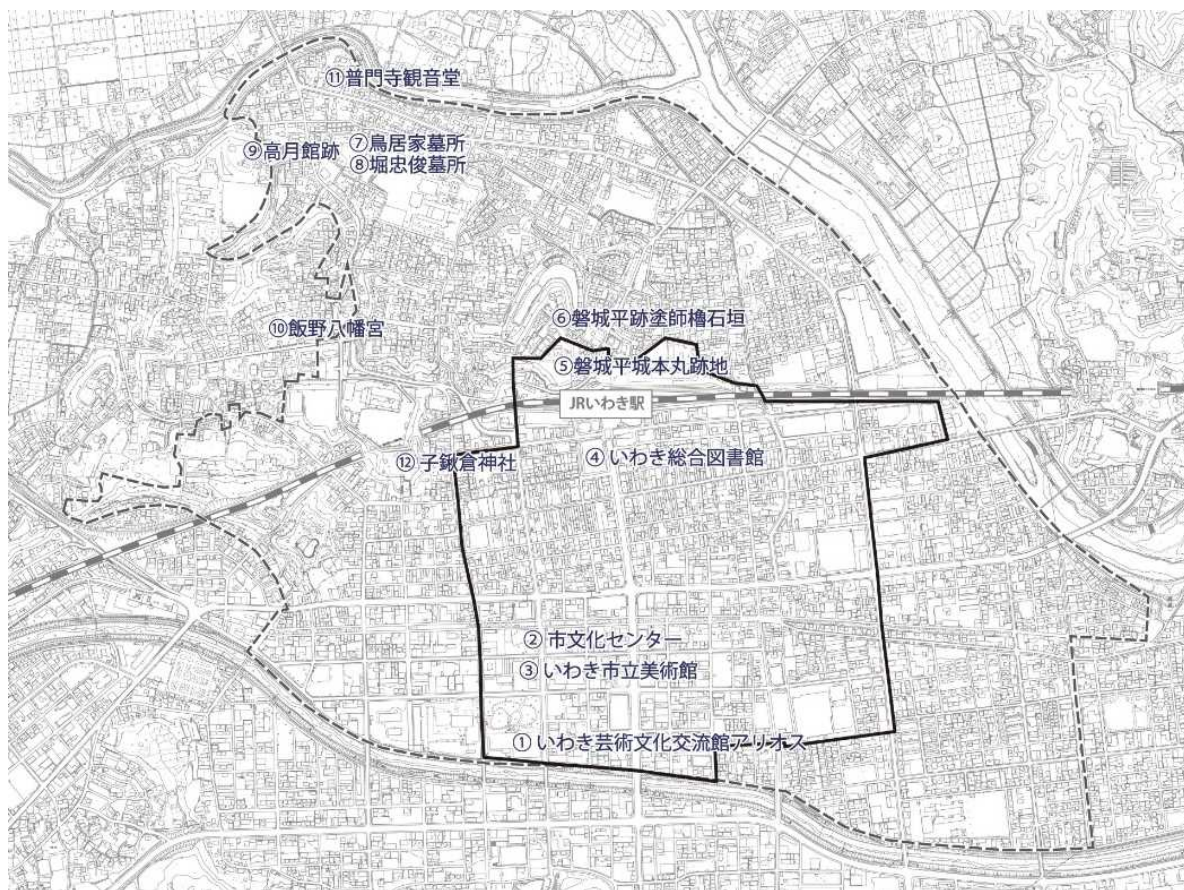
特に駅南側の地区には多くの都市機能が集積しており、市役所を中心とした地区の南西エリアは、国・県の合同庁舎等の行政施設や、平成 21 年に竣工したアリオスや平中央公園、市立美術館等の文化施設等を中心とした都市機能の高い集積が見られる。他方、商業エリアである駅前には、店舗の立地が多いものの、古くからの医療施設の立地や、平成 19 年に再開発によって開業されたラトブなどの商業施設に加え、オフィスや、市の総合図書館、行政窓口、産業創造館等が設置され一つの拠点を形成するなど、駅前の商業エリアを支える都市機能が集積している。また、駅の南東地域にも、体育館や運動場、消防署等の施設が立地するなど、いくつかの集積拠点を有しながら、地域を形成している。

多数の公共施設等の都市機能を有する一方で、比較的緑地が多く立地している。駅北側は丹後沢公園が立地し、南側には、松ヶ岡公園や平中央公園、地区を東西に通る新川緑地等、多くの公園等が存在している。



○文化・歴史資源の集積

歴史的資源は、駅北側の磐城平城本丸跡地周辺に多く見られる。一方、図書館や美術館などの文化施設は駅南側エリアに多く立地し、歴史が集積する地域と文化が集積する地域とが、駅の南北で分かれる構造となっている。中心市街地には、総合図書館やアリオス、美術館など、地域の拠点となる文化施設の集積が見られる。



	施設名	施設分類	住所
1	いわき芸術文化交流館アリオス	文化施設	いわき市平字三崎 1-6
2	市文化センター	文化施設	いわき市平字堂根町 1-4
3	いわき市立美術館	美術館	いわき市平字堂根町 4-4
4	いわき総合図書館	図書館	いわき市平字田町 120
5	磐城平城本丸跡地	城跡	いわき市平字旧城跡 28
6	磐城平跡塗師櫓石垣	史跡	いわき市平字旧城跡
7	鳥居家墓所	史跡	いわき市平字胡摩沢 130
8	堀忠俊墓所	史跡	いわき市平字胡摩沢 130
9	高月館跡	史跡	いわき市平字高月 7
10	飯野八幡宮	指定文化財	いわき市平字八幡小路 84
11	普門寺観音堂（附）扁額1面	有形文化財	いわき市平字北目町 159
12	子鍛倉神社	寺・神社	いわき市平字揚土 30

出典：いわき市公開情報を基に作成